

伝統を受け継いで ～生出中学校 地域の方々から学ぶ～

仙台市立生出中学校は、市西部の太白山の近くに位置し、田園地帯が広がる、自然豊かな地域にあります。保護者や地域の方々の学校行事への参加や協力が盛んで、「地域の学校」として根付いています。

学校と地域の協働による活動の中でも特徴的なものとして、「生出森八幡神楽」があります。これは、明治時代から地域で受け継がれている、歴史ある神楽です。「日本古来の楽器に触れさせたい」、「この伝統を守りたい」という思いから、地域で神楽に取り組んでいる方々が中学校で指導しています。

神楽を指導しているのは、生出にお住まいで、PTA 会長などもお務めになられた嶺さんです。嶺さんは、15年間、中学校での指導を継続しています。さらに、今年度から同じ生出にお住いの、嶺岸さんが笛の指導者として加わったそうです。この日は、1年生10名に、笛の指導を行っていました。

嶺さんは「地域の伝統を残していくことはとても重要なこと。15年やってきて、現在2名が神楽に参加してくれている。これはとてもうれしいこと。地域に住む子どもたちが、少しでも興味を持ち、一人でも伝統を受け継いでくれればいいですね。」と話してくれました。

嶺岸さんは「いろいろな場で、『生出の良さ』みたいなことを聞きますが、結構答えられる生徒が多いです。自然がいいとか、学校の給食がおいしいとか。中学校では、伝統芸能のような地域の大事なものを体験し、さらに生出の良さとして記憶に残ると嬉しいです。」と話してくれました。



嶺岸さん（左）と嶺さん（右）

実際の神楽の指導では、「今の吹き方よかったよ」「だんだんよくなってきたね」など、褒める言葉が多くありました。また、全体には、「自分も音が出るまで何度も練習した」ことや、「今、音が出なくても大丈夫」などのように、生徒が安心して取り組めるような声掛けがたくさんありました。

生徒たちは、真剣な表情で笛の練習に取り組んでおり、なかなか音が出せない生徒たちも、二人の温かい声掛けのおかげで徐々に表情が柔らかくなるなど、練習を楽しむ様子が見られました。



二人の指導を楽しそうに受ける生徒たち

生徒たちが、地域の方から言われてうれしかった言葉として、「一生懸命地域のために活動してくれてありがとね。」という言葉や、「下校のとき、『おかえり』が嬉しかった」、「『未来の館長』って呼ばれてとても嬉しかった。その期待に応えて、地域とこれからも関わっていきたい。」など、生徒たちへの温かい声掛けが多く挙げられました。



大倉校長は、「生出中学校では、神楽の指導だけでなく、様々な場面で地域の方から協力をいただいている。まさに『地域と一体になっている学校』です。」と、地域の方々に関わることによる生徒たちへの教育的効果を実感しています。

地域の方々の温かな声掛けや安心して活動できる雰囲気づくりが、生徒の安心感やより良い人間関係づくりにつながっています。

【その他の生出中学校の特色ある地域学校協働活動】

「生出地区地域防災訓練」 7月に生出小・生出中・地域の合同で防災訓練を実施しています。地域の方々と協力し、避難所設営に取り組む中学生の姿が見られました。



「凧揚げ大会」 生出地区では、以前から凧あげが盛んに行われてきました。現在も仙台凧の会の皆さんを講師に、小学校や中学校で凧作りが行われています。2月には、できあがった凧を使い、凧揚げ大会を実施しています。自分で作った凧が大空高く舞い上がる様子に、生徒たちは大きな歓声を上げているそうです。



関連リンク: 生出中学校の HP
はこちらから

